（学校運営協議会・報告様式）

令和５年度　第６回　鈴鹿市立桜島小学校　学校運営協議会　実施報告書

１　日　時　　令和　６年　２月　１５日（木）　１６時００分～１７時２０分

２　場　所　　桜島小学校家庭科室

協議事項

１　学校評価について（別紙）

　校長から令和5年度学校関係者評価書をもとに学力向上、ICTの活用、長欠減少、地域連携、生徒指導について、桜島小学校の現状や成果・課題，学年の児童の様子を踏まえて、具体的な説明を行った。また、改善点について、意見交流を行った。

校長：まず、学力向上についてですが、教科担任制には概ね高評価をいただいています。読書の貸出冊数も一人当たり10冊増加となっており、読書活動の取組みが多くなったことが関係していると分析しています。スクリーンタイムについては、家庭との連携が必要であると考えています。

改善点は、楽しいと思える授業づくり、教科担任制の継続、スクリーンタイム、読むYOMUワークシートの活用などが挙げられます。

教頭：それでは、学力向上について各委員からご意見ください。

委員長：教科担任制は将来的に増えていくのか。

校長：高学年では、中1ギャップの解消を目指して、継続して取り組んでいきたい。

委員長：読書活動の数値がよくなったのはなぜなのか。

校長：図書活動を研修部と関連させることで、図書まつりなど子どもたちが気軽に図書室を利用できる雰囲気を作るなどのしかけがあった。また、読み聞かせボランティアさんにも年間通じて活動していただいた点も非常に大きな効果があり、感謝している。

委員：本の勉強会などに参加し、本の質の変化についてお話があった。古い情報ではなく、最新の本を準備することが大切と思う。

校長：年間予算をうまく活用して蔵書、学級文庫の充実を図っていきたい。

委員：この桜島地区からは、市立図書館も少し遠いので、近くの公共施設など身近な施設に新しい本が置かれると良いと思う。

委員長：亀山市では、新しい図書館が駅前にできた。鈴鹿市も教育にお金をもっとかけていくことが重要である。そのためには、企業誘致するなど、行政側の努力が必要である。また、保育所などの公共施設も整えて、子育てに優しい街を目指してほしい。

委員：私も同じ意見である。

委員長：自治会からも、もっと教育に力を入れるように働きかけていきたい。

委員：本が古くて、ボロボロになっている。たくさん読まれて、良いことだとは思うけど、子どもたちには、きれいで新しい本を手に取ってほしい。PTAとも連携して、何かできることはないか。

委員長：本の直し方も古本屋から聞いたことあるが、できることがあれば、協力したいと思う。

校長：学校には、巡回図書指導員さんも定期的に来てくれている。様々な方の力を借りており、感謝しています。

教頭：それでは、次にICTの活用について、よろしくお願いします。

校長：ICTに関しては、まだまだ課題も多いが、様々な実践が行われている。例えば、音楽会の映像配信、高学年ではクラスルームで連絡帳の入力、次の児童会役員選挙ではクロームブックを使っての電子投票も考えている。

　ただ、クロームブックの重さは、児童にとって負担となっていると耳にする。保護者の方から使い方が分からないという問い合わせもある。他にも、児童が誤った使い方をして「なりすまし」行為をするなどの問題行動の報告もある。

委員長：クロームブックを使ってのいじめなどは発生していないのか。

校長：クロームブックのデータは市が管理しており、クラスルームでのやりとり、友人のアカウントを使って「なりすまし」をするなどの問題行動にはその都度、指導している。

委員：クロームブックの実物を見てみたい。実際の使い方など見せてもらえると、もっと議論が深まると思う。

委員長：児童はずっと同じものを使うのか。

副委員長：卒業まで6年間使うと聞いている。性能は大丈夫なのか、心配な部分はある。

教頭：それでは、長欠減少、地域連携について、よろしくお願いします。

校長：長欠児童について、さくらルームの利用について、各委員からご意見にいただきました。さくらルームの支援員は時間増ということを教育支援課と調整しております。新たな不登校を生まないよう努めているが、休みが続いてしまう児童もおり、担任だけでなく、SCを活用するなど、早期対応を心掛けている。

　また、地域連携では、ボランティアの募集を地域コーディネータと連携して行っていく必要があり、子どもが地域のボランティアに参加するなどの取組みも進めていきたい。見守り隊の活動も整えて、PTAと協力しての旗当番など、登下校の見守りを継続していきたい。

委員長：ＳＳＷさんは校区に一人なのですか。

委員：白子中学校区は大規模校なので、校区に一人当ててもらっている。

委員長：社会福祉協議会にもＳＳＷがいる。なかには、ボランティアの方もいる。小学校生活が、子どもたちにとって、今後の生活の基礎となるので、丁寧に見守れる環境を整えてあげたい。

副委員長：学校という場なので、誰でもいいというわけではない。

校長：責任が問われますから。地域でも相談できる仕組みを整えてもらえるのはありがたい。学校もスピード感をもって対応できるようにしたい。支援のタイミングも大切と考えている。

副委員長：素早い対応が重要ですよね。

委員長：守秘義務もあるしね。

委員：クロームブックが長欠児童の対応にもっと活用できないか。先生との会話や学校に行かない子どもの学習の選択肢の一つになればよいと思う。

校長：学校というワードがプレッシャーと感じる児童もおり、その子に応じた対応を心掛けている。

委員：今の子どもは、ネットでつながっている。学力がないと、さらに学校に行きづらくなる。ICTをうまく活用できればよいと考えている。

委員長：ズームなどもあるからね。

委員：インターネットって杓子定規に言っても、様々な使い方がありますね。

教頭：それでは、生徒指導について、よろしくお願いします。

校長：今年度は「人を大切にする」ということをテーマに、みんなの居心地が良い学校とは？という観点から、ルールやあいさつについて考えさせるような指導を行ってきた。ただ、先生によって注意される・されないという意見もあり、今後も学校として統一した指導ができるような体制を目指していく。

あいさつについては、カードを使って意識づけをしている。ノーメディアについては、中学校区で統一して取組みを進めている。他にも、ノー残食デーも鈴鹿市全体で取組むなど組織的な活動として定着するよう努めている。

委員長：私も毎朝、通学路に立っているが、毎日挨拶をすると、子どもたちも挨拶を返すようになってくる。続けていると、話をするようになり会話ができる。中には、横向いて返事もしない子どももいるけど、思春期だからね。富士電機の通行人も巻き込んで会話する時もある。

副委員長：声かけたら、返す子どもが多い。家庭内ではきちんと挨拶してるのかな。

委員長：家庭内でもきちんと挨拶している子どもは２～３割くらいじゃないかな。家庭内でのしつけが大切だと思う。

２　次年度に向けて

委員長：今年度も大きな問題なく、3月を迎えようとしています。最後まで、取組を進めてほしい。

委員：パンダストップマークが必要で、鈴鹿市PTA連合会に確認したら、6枚もらえた。ただ、この数では足りないので、自治会からも声かけしてもらえると助かります。

副委員長：また、確認しておきます。

委員：通学路にある伊勢鉄道線路付近の鉄製の階段が劣化して、危険である。

委員：雨の日、滑りやすい。過去にも話題にあがったことがあり、応相談と言われた。

委員長：伊勢鉄道に直接確認してみます。

委員：シェリール近くの横断歩道を渡る子どもがいるけど、通学路なのかな。

委員長：他にも時間ギリギリの子どもが通学路ではないところを通っているのを見かけることがある。

委員：通学路って、保護者はわかっていないんじゃないかな。地区での旗当番などは、毎年決まった場所に立っているけど。

校長：いただいた意見を参考にして、交通指導、地区児童会、保護者への通学路の案内等、対応可能な部分について考えていきます。

教頭：これで、本日の協議事項を終えましたので、これで終わります。